

島田市  
こども発達支援センター  
「ふわり」  
+  
民営化保育園

隣接する敷地に計画されたこども発達支援センターと民営化保育園です。両施設の連携・園児の交流という理念から、屋根付き交流デッキを設け、運動場も一体で共有することが計画されました。

「ふわり」には、園児の指導室、遊戯室、個別指導室があり、支援室が併設されています。外部スペースとしては、安全に遊べる中庭と、指導室前の前庭、保育園と一体になった運動場、両園の遊戯室との一体的な使用を考えた交流デッキがあります。

保育園には0～5歳児保育室、一時保育室、病後児保育室、遊戯室、地域子育て支援センターが設けられています。子供も眠くことのできる大きな調理室は、「ふわり」の昼食もつくります。

この施設の建つ場所は、四方を山に囲まれた優れた環境です。環境にとけ込み、建築自体が、そういったものと連続している造形物であること、つまり“地続きである”ことを、こどもたちに、感覚として直に感じる手助けをしたいと思います。

こどもたちの感じることのできる単純な私たち（だんだん）を用いて、有機的な全体形を構築しました。連なる屋根は、さながら空に浮かぶ雲のように見え、一方で、「おうちのようなだね。」とか、「レゴみたいだ。」という声も聞きます。こどもたちの想像力や好奇心といった、皆で共有できる大切な感覚を育むことのできる園舎でありたいと願っています。

設計・監理

エーアンドエー総合設計 / 八木敦司建築設計事務所

- ◆ 設計期間  
2006年8月～2007年4月
- ◆ 施工期間  
2007年5月～2008年3月
- ◆ 敷地条件  
地域地区：都市計画区域内 用途指定無し  
道路幅員：南 5.5m, 東 6.0m 北 6.0m

遊戯室、交流デッキ 夕景



運動場側外観





平面計画

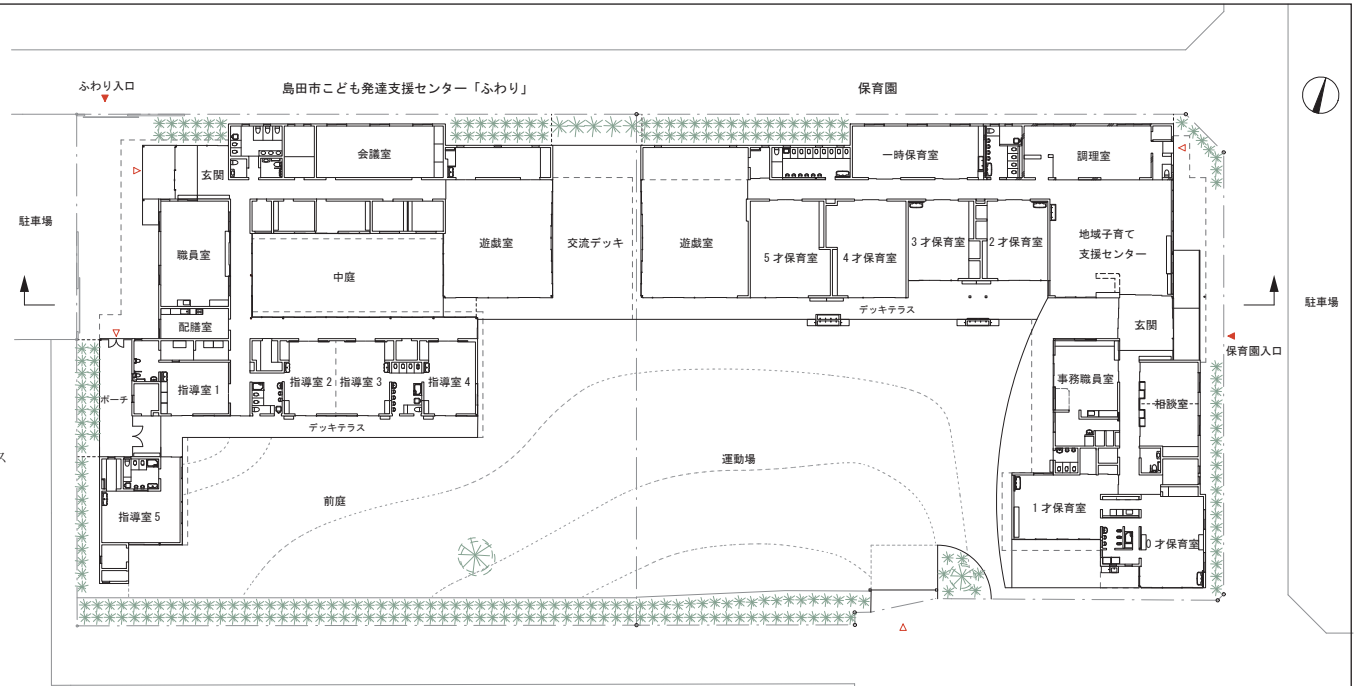
基本的には、一つ一つの部屋を、それに合わせた天井高さをもったボックスと考え、それらをクラスター状に連結しています。

外部スペースは、大中小の3つづくり、交流と活動に合せて使っていきます。中庭は安全に遊べる庭、前庭はもっと開放的に外と接した庭、そして、運動場は一体的で、境界なく、共有される庭です。プランニングのイメージは、海と海岸線のようなものです。園舎を陸に、外部スペースを海に例えると、中庭は落ち着いた入江。静かな海もあれば、猛々しい海もある。海に象徴された外部スペースが、こどもたちの、分け隔てのない交流につながるように、と考えました。

陸に象徴される園舎は、海岸線のように、出っ張り、引っ込みがあります。こどもの居場所としての多様性をつくり、静けさやにぎわいをつくってくれます。海岸線がもつ、複雑さや有機的な形状、連続性、そしていろいろなる場所を作り出せる多様性というものを建築に表現することで、2つの園の交流という、実際は、なかなか難しい課題である理念を、こどもたちに身体で感じてほしいと思っています。

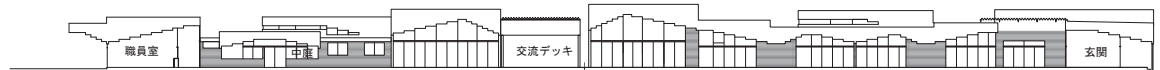


ふわり中庭

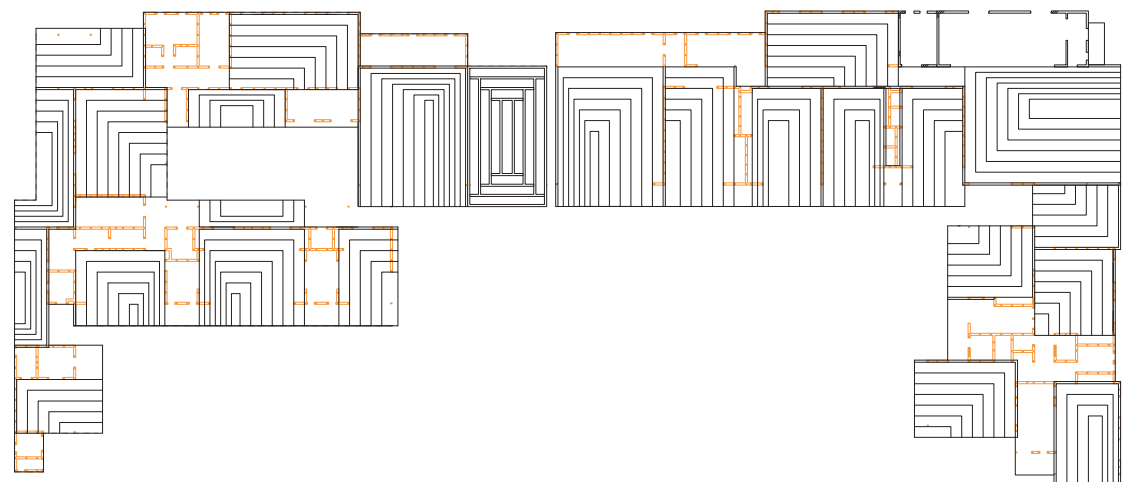


ふわり  
エントランス

平面配置図 1 : 700



立断面図 1 : 700



天井伏図 1 : 700





両園の遊戯室と交流デッキ

#### 断面計画 構法

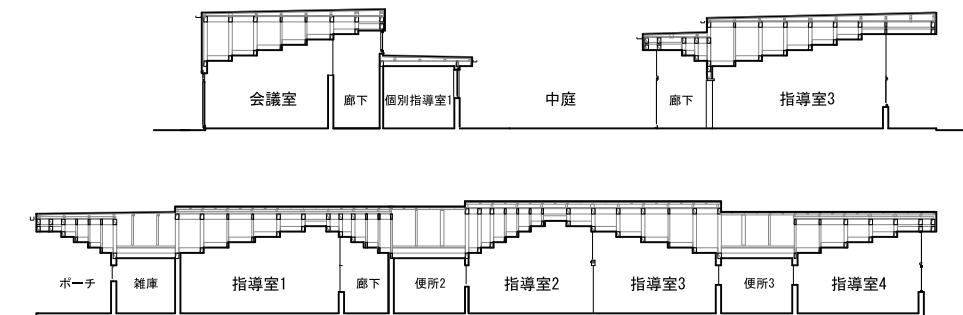
当初から、平屋建てが要件としてあり、木造であれば、より良いという希望がありました。木造でロングスパンをとばし、かつ、地場の大工さんがつくることができる構法を探る中で、段々状の屋根に行き着きました。この段々状の屋根は、小さなスケールから大きなスケールまでを同じ方法で、しかも、連続的につくることができます。

具体的には、在来軸組工法 + 構造用合板両面張りの合成梁を重箱状に配置し、下面に、合板を張る事で一体の屋根架構としています。部屋の用途や場所、大きさによって、天井高や段々の形状、方向を、構造を考えながら、ある程度自由に決定できます。こうして、ボックスは、段々屋根を持つ特徴的な空間となり、それらがクラスター状に連続して繋がって園舎を構成しています。



保育園遊戯室 夕景

保育園側外観



断面図 1 : 300



ふわりデッキテラス



ふわり廊下



交流デッキ



ふわり遊戯室



ふわり指導室 5





保育室デッキテラス



保育園 地域子育て支援センター

保育園 一時保育室



保育園 4才保育室



保育園 1才保育室

